

平成24年度第1回仙台市男女共同参画推進審議会 議事録

日 時 平成24年5月29日(火) 18:00~20:00

会 場 仙台市役所本庁舎2階 第五委員会室

出席委員 下夷美幸会長, 佐藤慎也副会長, 長田伸一委員, 加茂光孝委員, 草貴子委員,  
高野雅之委員, 高橋嘉代委員, 橋本啓一委員, 原田俊男委員〔9名〕

欠席委員 池田和子委員, 河崎祐子委員, 佐藤美砂委員, 佐藤理絵委員, 望月美知子委員  
〔5名〕

事務局 上田市民局長, 白川市民協働推進部長, 小野男女共同参画課長,  
高橋男女共同参画課主幹, 男女共同参画課担当者

議 事 1 開会

2 局長挨拶

3 協議

(1) 会議の公開等について

(2) 議事録署名人の指定について

(3) 地域防災を効果的に推進するために必要な男女共同参画の視点について

①地域防災の仕組み・行政における取り組み

②震災時に地域で起こったこと

(4) 審議会の今後の進め方について

4 その他

(1) 男女共同参画せんだいプラン2011における優先的・重点的な取り組みの  
進捗状況について

(2) 日本女性会議の開催について

5 閉会

1 開会

○高橋男女共同参画課主幹

ただいまより平成24年度第1回仙台市男女共同参画推進審議会を開会いたします。  
本日の審議会は、9名の委員の方々にご出席いただく予定となっております。池田委員、  
河崎委員、佐藤美砂委員、佐藤理絵委員、望月委員はご都合によりご欠席のご連絡を  
いただいております。それから佐藤慎也副会長につきましては、遅れて到着される  
予定でございます。

(続いて事務局側の出席者を紹介)

2 局長挨拶

○上田市民局長

改めまして皆さん、こんばんは。この4月から市民局長を拝命いたしました上田昌孝でございます。どうぞよろしく願いいたします。本日はご多忙のところ、この審議会にご出席いただきまして、本当にありがとうございます。今年度につきましては、東日本大震災で発生しました男女共同参画に関する様々な課題を受けまして、特に地域防災を効果的に推進する観点から、地域における男女共同参画を推進するために必要な視点について議論をいただくことになっております。地域防災を考えていく上で、特に女性がリーダーとして参画していくことなしには進めることができない課題もあると考えております。

本日は消防局から「地域防災の仕組みや今後の取り組み」、それから六郷地域包括支援センターのセンター長の渡邊さんから「震災時に地域で起こったこと」などについてお話をさせていただくことになっております。今後、男女共同参画を推進していくにあたりまして必要な視点など、活発なご議論をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○高橋男女共同参画課主幹

局長はこのあと日程がございますので、退席させていただきます。

○上田市民局長

どうぞよろしく願いします。失礼いたします。

○高橋男女共同参画課主幹

それでは、ここで資料の確認をさせていただきます。皆様のお手元には、次第、委員名簿、そして資料1から資料5までがございます。それから、消防局の説明資料としてお配りしたパンフレットと地域防災リーダー養成講習会のチラシ、あとは（公財）せんだい男女共同参画財団の事業概要をお手元にお配りしております。

本日は、議事録作成のために録音をしております。ご発言の際はマイクを使ってご発言いただきますようお願いいたします。

### 3 協議

#### (1) 会議の公開等について

○高橋男女共同参画課主幹

それでは、早速協議に移らせていただきます。これ以降の進行は、下夷会長にお願いいたします。

○下夷会長

皆様、どうもお忙しいところありがとうございます。それでは議事に入りたいと思います。まずこの協議の(1)会議の公開等についてです。会議の公開・非公開は、審議会の都度、審議会で決定するということになっております。事務局にお尋ねいたします。本日、特に非公開とすべき案件は用意しておられますでしょうか。

○小野男女共同参画課長

非公開とすべき案件はご用意しておりません。

○下夷会長

それでは、本日の会議は公開ということで、議事録についても後日公開することとさせていただきます。皆様よろしいでしょうか。

(全委員了承)

## (2) 議事録署名人の指定について

○下夷会長

それでは、(2) 議事録署名人の指定についてです。この議事録署名人の指定については、私の方から指名させていただくことになっておりまして、毎回ご出席いただいている委員さんの中から五十音順に、順番にお願いをしております。今回は高野委員と橋本委員にお願いできればと思いますが、お引き受けいただけますでしょうか。

(高野委員・橋本委員了承)

○下夷会長

それでは、今回の議事録署名人は高野委員と橋本委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

## (3) 地域防災を効果的に推進するために必要な男女共同参画の視点について

○下夷会長

では、(3) 地域防災を効果的に推進するために必要な男女共同参画の視点について、という議題に移ります。始めに事務局からご説明をお願いできますでしょうか。

○小野男女共同参画課長

それでは、ご説明させていただきます。前回の審議会におきまして、助言・提言をいただくテーマについて事務局から4つの案をお示しいたしまして、委員の皆様から様々なご意見をいただきました。テーマにつきましては、最終的には地域防災という部分で会長に一任していただくことになりまして、その後、会長と事務局で検討させていただいたところでございます。

資料1をご覧ください。1の審議するテーマでございますけれども、これまで地域防災につきましては、消防団などをはじめ、男性が中心となって担ってきた面が強かったというところがございますが、今回の震災での経験を踏まえますと、地域での防災活動を促進し自主防災力の向上を図るためには、特に女性の参画を進めることが喫緊の課題であることが分かりました。そのため、今回ご審議いただくテーマといたしましては、「地域防災を効果的に推進するために必要な男女共同参画の視点について」とさせていただきますと考えております。

続きまして、本日の審議会の進め方についてご説明いたします。資料1の2の第1

回審議会の進め方をご覧ください。本日は、委員の皆様にご覧いただき、地域防災を効果的に推進するために必要な男女共同参画の視点について検討していただくにあたりまして、そもそも地域防災がどのような仕組みで取り組まれているのかをご理解いただくために、「地域防災の仕組み・行政における取り組み」というテーマで、消防局減災推進課の山田主査から「仙台市における地域防災の取り組み」と「東日本大震災において発生した地域防災の課題」、「今後取り組もうとしていること」についてご説明させていただきます。

質疑の後には、「震災時に地域で起こったこと」につきまして、六郷地域包括支援センターのセンター長の渡邊美智子様から「震災発生後、地域の女性たちに起こったこと、女性たちの動き」、「平時から、どんなことに取り組むことが必要と感じたか」ということについてお話しさせていただきます。

山田主査、渡邊センター長には、それぞれ質疑を受けていただいた後にはお帰りいただくこととしております。その後、審議会の委員の皆様でご議論いただければと存じます。

#### ○下夷会長

それでは、まず「地域防災の仕組み・行政における取り組み」ということで、最初に仙台市消防局減災推進課の山田主査によろしくお願ひしたいと思ひます。

#### ○山田減災推進課主査

仙台市地震防災アドバイザーの山田耕太郎と申します。消防局でも地域防災についていろいろな取り組みなどを長年しておりまして、私からはその説明を若干させていただきます、東日本大震災を受けて明らかになった地域の課題について、私どもが知っている範囲でご説明したいと思ひます。その後、今後取り組もうとしていることがいろいろありますけれども、主にこの減災推進課で進めております地域防災リーダーの説明を、直接の担当者の針生からご説明したいと思ひます。

仙台市の地域防災というのは、いろいろな組織がありますが、自主防災組織という組織を中心に行っていた部分がございます。この自主防災組織というのは、単位町内会を基本として、名前というか形を変えて自主防災組織として、何々町内会自主防災会といったネーミングをつけて活動していただくという形で結成していただいています。平成24年の4月1日現在ですと、1,383の町内会のうち1,352の町内会で組織されております。これは、パーセントに直すと97.7%で、非常に高い数字と認識しております。形としては、消防局に届け出を出していただくということになりますが、結成時には防災用品を支給するという形になっています。防災用品としては、メガホンや携帯ラジオつき懐中電灯、それから搬送用担架、救急セットなどといったものがあります。阪神淡路大震災後には、バール、それからハンマーと我々は言うのですが、ハンマーを支給して地域で何か救助活動ができないかという品目も加えまして、世帯数による点数制にして助成を行うということになっています。この97.7%という数字

が100%に近いものですから、かなり結成率はいい状況です。

その他に消防局が把握している団体として、婦人防火クラブがあります。これは、各地区町内会の婦人部のような位置付けになりますでしょうか、地域によって違うのですが、この婦人防火クラブという任意団体があります。これは、我が家、地域から火事を出さないことが始まりのものでして、あくまでも自助のものです。それで連絡協議会などを作っけていき、地域のつながりを持ち情報交換などをいろいろしていこうというものです。一番大きい団体としては、仙台市の婦人防火クラブ連絡協議会というものがああります。これも、基本的には町内会の単位などで結成してもらっているのが主です。震災時は、この婦人防火クラブは町内会の組織の1つという位置付けになりますので、役割としては例えば炊き出しの担当、それから安否確認で町内会を回ってもらおうなどということをした、と伺っております。

消防署に相談いただければ、訓練なども出向きますし相談もさせていただくというやり方で、自助あるいは共助を促していております。私は仙台市で唯一の地震防災アドバイザーですが、各消防署にも地域地震防災アドバイザーがおりまして、全員で87名がきめ細かく地震防災などについて説明しに行くという形を取っております。このようなものが、仙台市消防局で実施していた地域防災に対する取り組みということになります。大震災を受けまして、減災推進課、それから防災企画課でも避難所運営マニュアルなどいろいろ変える点が今ありまして、ここで細かいことは申し上げることもできないのですが、見直しをしている部分もあります。

それで、東日本大震災において発生しました地域防災の課題ということですが、いろいろな仕組みが上手くいったこと、いかなかったこと、いろいろあるかと思ひます。例えば、町内会で安否確認をするのに黄色い旗を立てて、黄色い旗を立てたところは「安全、無事だよ」という意味なので、そこは安否確認をしに行く必要がないという取り組みがありました。それから、中学生に積極的に避難所運営に参加していただくものもありました。これは中学生自らがやるということもありまして、プールの水を汲んでトイレに使ったとか、何か新聞を壁新聞みたいに貼り出して、1人でも多くの人に見てもらったとか、そういったアイディアの町内会もあったようです。これも有名な話ですが、他県の町内会と町内会同士で協定を結んでいて、震災の後、4日ぐらい経ってから救援物資を届けてもらって非常に助かったという町内会もあったとのこと。この町内会は、実は山形県のとある地域と協定を結んでおりまして、その時だけ救援をするのではなくて、例えば大雪になったらちょっと除雪に行ったとか、そういう普段から顔の見える関係を築いていたということを知っております。

上手くいかなかったこともいろいろあるのですが、例えば、自主防災組織の訓練あるいは活動が有名無実というか、結成はしたけれどもその後の活動がなく、あるいはせつかく支給した防災用品がどこにいったか分からないといったことになってしまつて、地域によってかなり活動にも格差がありました。これは、やはり日頃から活動が

停滞していたところと、積極的に毎年のように年2回ぐらい訓練をやっているところと、少し格差があるのではないかと。訓練だけに限らず、例えばお祭りだとか、そういった町内会の行事も積極的にやっているところは、震災時でもかなり強く動いたかなという感じがします。

避難所運営や備蓄にも女性の視点ということで、問題がいろいろあるかと思いますが、これは女性からも言い出しにくいのかなという反面、男性からも言いにくい部分がありあるのかなという感じがします。気付いてはいるけれども、これを言っているのかなとか、そういうことが少しあるようです。

女性の参画ということでは、婦人防火クラブがパッと浮かぶのですが、婦人防火クラブは、我が家から火を出さないなど自助、草の根的な意味が濃く、しかも町内会とは何か別組織みたいな感じですので、なかなか直結することが難しく、婦人防火クラブの方が町内会にリーダーとして出なかったということもあります。ただ、この婦人防火クラブの会長さんにしても、その婦人防火クラブで活動している方が、町内会と顔の見える関係をどんどん作っていくと、避難所運営がスムーズにいったと婦人防火クラブのアンケートでも明らかになっています。このアンケートについては、こちらの「アドバイザー室へようこそ」で触れておりますので、参考にいただければと思います。主に炊き出し、それから安否確認、避難誘導、避難所運営にも携わっていたという記述がございます。どうしても救助活動や搬送は、女性の力では厳しい部分があったということもあるようです。

課題としましては、この地域防災です。その地域、町内会の自主防災組織の日頃からの活動の差が大きいかなと。いまひとつ活動が活発でないところは、いろいろな事情がございました。例えば、町内会長さんが毎年変わる地域であったりすると、1年の行事をこなしてそれで終わりになってしまいます。防災に関しても続けていくことが非常に大切だと認識しておりますので、それを何とかしたいと考えたのが、今回の防災リーダーの養成ということになります。今年から地域で50名程度の防災リーダーを養成しまして、地域の防災について、いろいろリーダーシップを取っていただきたいと考えております。これは、できれば町内会長さんではない方、町内会長さんが駄目ということではありませんが、町内会長さんは変わったりもしますので、できれば継続的に防災について取り組める方をお願いしたいとしておりまして、ぜひ、女性の方も手を挙げていただきたいと考えております。それでは、針生の方から防災リーダーについて、改めてご説明申し上げます。

#### ○針生減災推進課主任

皆さん、こんばんは。減災推進課の針生と申します。よろしく申し上げます。

お手元のパンフレットに基づきまして、ご説明させていただきます。新事業でございます平成24年度の仙台市地域防災リーダー、略称としましてSBLの養成講習の実施ということで、これは本来であれば平成23年度に実施する予定でしたが、震災の影響

響で事業が凍結しまして、今年度から新しく実施する講習会となっております。

1番は「仙台市地域防災リーダーとは」ということで、中段でございます「平常時には町内会エリアの地域性を考慮した防災計画作りや効果的な訓練の企画、災害時には地域住民の避難誘導や救助・救護活動の指揮を行うなどの役割を期待している」ということです。SBLは Sendaishi chiiki Bousai Leader の略となっております。

2番の「講習会について」は、今年度はモデル的に、試行的に実施します。平日がいいのか、それとも土日バージョンがいいのかということで、2通りのパターンを考えました。1期が平成24年11月17日の土曜日から18日の日曜日まで、2期につきましては24年の11月29日の木曜日から30日の金曜日の平日バージョンとして実施します。内容につきましては、講話、演習などのプログラムで、1日あたり6時間の講習を行う予定であります。会場につきましては、仙台市消防局の7階講堂で実施します。

続いて、裏をご覧ください。3番の「募集方法について」ですが、今年度につきましては各区の連合町内会長協議会から推薦された方とさせていただきます。推薦依頼につきましては、減災推進課の方から各区の連合町内会長協議会様に推薦依頼書を送付させていただきます。8月に連合町内会長協議会様から推薦書の送付をお願いいたします。受講対象としましては、今年度は連合町内会に所属している町内会で、自主防災組織の責任者、または町内会の防災などに比較的長く関わる方。例としましては、自主防災隊長・防災部長・防災班長などです。もちろん、この中にも女性の方ということで考えております。募集人員ですけれども、今回は各区5名として、1期あたり25名、2期実施しますので50名募集します。区内の2～3の連合町内会から受講者10名の推薦をお願いいたします。ただし、単体の町内会1名の方で悩むことなく、連合に入っている町内会の皆さんで少し検討していただくということで考えております。受講決定につきましては、9月末ごろまでに連合町内会長協議会様及び受講者に対して講習会のご案内を送付いたします。

4番の「講習カリキュラムについて」ということで、2日間にわたり講習会を実施します。地域防災リーダーの役割として自助・共助の活動支援、リーダーの役割及び地域との連携についての基礎知識。続きまして平常時の活動として、地域の実情にあった効果的な防災訓練の企画・立案。発災時の活動として、避難誘導、初期消火、救助及び救護等の実践訓練。復旧時の活動として、避難所の運営等についての学習。最後に復習・効果測定を行い、講習会の成果を確認します。

5番につきまして、受講者の方にはオリジナルのヘルメットとビブス、さらには認定証をお渡しします。

6番ですけれども、「講習終了後の地域防災リーダーに期待する防災活動」ということで、地域防災リーダーの役割を理解し、地域への普及を図る、地域の実情にあった効果的な防災訓練の企画・立案、災害時要援護者の把握と避難支援等、最後に避難誘

導、救護及び安否確認等の実践的な訓練の実施等になります。

7番ですが、講習会を受けた後はどのような形で訓練をすればいいのということで、仙台市消防局でもバックアップ体制ということで考えております。まずステップアップ講習会の実施ということで、新たな知識の習得、技能の向上を目指し、随時講習会、訓練を実施します。そして、ネットワーク作りとして市内の地域防災リーダーの連携が図れるよう、活動発表会等を開催いたします。また、地域防災アドバイザーによる支援として、各消防署の地域防災アドバイザーが、訓練についての情報提供や指導法等について、いつでもアドバイスしますということで、気軽にお問い合わせくださいという内容になっております。

問い合わせ先は下の方になっております。私から地域防災リーダー養成講習の実施ということで、ご説明を終わらせていただきます。

#### ○山田減災推進課主査

今後取り組もうとしている代表的なものとしては、やはり防災リーダーの養成ということになるかと思えます。今年は50人とかなり少ないものですが、町内会は1,300以上ありますので、当然来年度からはどんどん増やしていくべきだとも思っております。来年度からは、どんどん女性の方も手を挙げていただきたいと考えていますし、このバックアップ体制を消防局でもきちんとしないといけないと考えておまして、地域防災アドバイザーなども十分バックアップしていきたいと思っておりますので、女性の方も大いに、この地域防災リーダー養成講習会を受けていただきたいと思っております。以上を持ちまして、消防局からの説明を終わらせていただきます。

#### ○下夷会長

ありがとうございました。現在の基本的な仕組みであるとか、あと、この震災を受けて明らかになった課題、また今後の取り組み等を整理してお話しいただきました。

あまり時間はないのですけれども、今伺ったお話について、委員の皆さんからご質問などありましたら、ぜひお願いいたします。

#### ○原田委員

多分、女性の方にこのリーダーになっていただこうとすると、どうやって女性を多く推薦してもらうのが難しいと思います。そのための工夫を何かやっていたらいいのかな、ということが1つと、例えばこのパンフレットを見させていただきますと、講習の修了者の方が男性になっていますよね。これを、例えば女性が「受かったよ」というようなパンフレットにさせていただくと、より「あ、女性が受けられるんだ」という感じになると思うんです。そういう工夫もしていただきたいなという、意見でございます。

#### ○山田減災推進課主査

はい、女性の参加をしやすくという意見、承りました。婦人防火クラブや町内会の機会を通じて、女性も大いに参加して欲しいということをお願いしていきたいと考



えております。

○下夷会長

他には、いかがでしょうか。

○高橋委員

先程、この自主防災組織が全町内会中 97.7%ということだったのですが、こちらは  
婦人防火クラブも込みで 97.7%ということなんでしょうか。

○山田減災推進課主査

これは、自主防災組織のみの数字です。自主防災組織と婦人防火クラブは全く別の  
組織なので、町内会が 1,300 いくつあって、その中で自主防災組織として私どもに届  
けていただいた数が 97.7%ということになりまして、婦人防火クラブはまた別なもの  
になっています。

○高橋委員

婦人防火クラブの方は、どのぐらいの数になっているのでしょうか。

○山田減災推進課主査

申し訳ございません、その詳しい数字が今ここで申し上げられませんが、高い結成  
率になっていることは聞いております。

○高橋委員

あと、こちらの資料はどちらでいただくことができるのでしょうか。

○山田減災推進課主査

これは、震災を受けて昨年に予防課で作ったものですので、例えば私に言っていた  
できれば大丈夫です。各消防署にもいくらか置いていますが、数を言っていれば、  
用意いたします。

○高橋委員

ありがとうございました。

○下夷会長

他は、いかがでしょうか。

○佐藤副会長

私自身、西公園の方でプレーパークの代表もしているのですが、先日理事会でちよ  
うど震災時のお話が出ました。女性の保護者の方から聞いたのですが、マンホールが  
トイレになるような仕掛けがあるそうなんです。それで、震災時は市民会館など一部  
使えたトイレもあったんですけども、人が多すぎます。そのようなものも設置したく  
て市役所に来たところ、市役所でもマンパワーが足りないということで、対応できな  
いと断られたそうなんです。まさに、この防災リーダーの仕掛けの中に、その地域に  
ある何かそういったいろんな仕掛けがあると思います。そういったものを掘り起こし  
て訓練するようなものも含めて、何か具体的な地域の特性なんかも踏まえてご指導して  
いただけるよう、お願いしたいと思います。

○山田減災推進課主査

地域に合わせた指導やそういった取り組みというのは、当然必要だと思います。仙台市は山もあれば川もあって、海もあります。地域もいろいろで、マンションが多い、団地が多い、農家が多いなどいろいろあると思いますので、それを含めて防災リーダーを進めていきたいと思っています。

○草委員

この防災リーダーの検討委員をさせていただきました。役所から町内会に出てくるのは必ず意見交換会ということで、具体的にその次のステップの話がないということが少し不満で、区役所に足運んでいます。

防災リーダーについて、町内会から出していただきたいという話があっても、ほとんどの方は男性だと思います。それも退職した方々、そういう方々しか出て来れないということがあります。でも、実際に避難所運営や被災者の方を擁護したというのは、女性の方がほとんどになりますし、炊き出し1つにしても女性です。私は仙台市が頭になって、その下に町内会、婦人防火クラブ、ボランティア、消防分団、民生委員、障害者、学校など、実際に避難所で働いた方々を含め、団体のリーダーを集めて縦の繋がりと横の繋がりを深めて検討すべきだと思います。必ず町内会から女性を何名出してくださいと上から言わない限り、男性が出てくる可能性がすごく高いなと感じておりました。

○山田減災推進課主査

アプローチの仕方について、来年からは例えば女性を中心に何名出してくださいますることも1つの案だと思いますので、ぜひ進めていきたいと思っています。

○下夷会長

他には、ご質問はいかがでしょうか。

○長田委員

防災リーダーの講習の内容ですが、よく想定してみますと、どうしても男性中心の地域防災となっているというのは、災害の種類を短期的にどうしても想定しがちだからだと思います。というのは、大水ですとか、あるいは火事ですとか、そういったものは長くても大水だと2～3日で引きます。ただ、地震や津波など、今回みたいに長期的なものを想定しますと、より女性の力というのが、かなり大きな比重を占めてきます。

特に避難が長期化すると、プライバシーの問題ですとか、衛生面ですとか、娯楽とか、コミュニケーション手段となると、我々男性では女性にはとても太刀打ちできないような部分が多くあると思うんです。ですから、この養成講習会の中に、女性向けのような講習の内容を入れるとか、あとは、講習の日程も2日間で6時間ずつという防火管理者の講習のような感じになるのかと思うのですが、女性だともう少し長いスパンで、短時間でできるものも入れるといいのかなと思います。そのあたりについて

てお願いしたいなと思うのが1つと、あとは全く関係ないかもしれないのですが、仙台も今、新しい地下鉄を作っています。例えば地下鉄を使つての避難訓練ですとか、そこへの宿泊訓練といったものを東京都なんかで実施して、都民の方が大分関心を持って参加されたということも参考にして、仙台でも二番煎じとか三番煎じという意味ではなくて、何かあったときに避難する場所としては、適正なのかということもあるのでしょうか、やはり災害ということをお忘れないように関心持ってもらうためには、そういう施策も有効なのかと思うので、ぜひご検討ください。

○白川市民協働推進部長

いろいろなお意見、ありがとうございます。草委員、長田委員からのご提案も、具体的にこの委員会で話していただいた結果として、私ども市民局の方で受け止めて、これが審議会からのご意見ですという形で、消防局にぜひ持って行きたいと思っております。今日、地震防災アドバイザーに全部言われても、立場上、今すぐどうしますというお返事がなかなかできないものですから、今は聞いた話で分からなかったことだけとりあえずご質問いただいて、このあとの議論でどんだんご意見として出していただければと思います。例えば防災リーダー1つにしても、こういう役割を担う立場の人を養成したいと思っているんだなと伝わるようなカリキュラムにしてくださいという審議会からの意見、総意でございますという形で、消防局に持って行きたいと思っております。次にせつかく包括からも来ていただいて現場のお話もしていただきますので、その結果も踏まえて、またこういう意見を出していただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○下夷会長

では、ご質問の方、よろしいでしょうか。よろしいですか。

それでは、山田さん、お忙しい中どうもありがとうございました。

○山田減災推進課主査

どうもありがとうございました。

○下夷会長

それでは、続けてまいります。次に、「震災時に地域で起こったこと」について、六郷地域包括支援センターのセンター長の渡邊美智子さんにお話しいただきます。よろしくお願ひいたします。

○六郷地域包括支援センター 渡邊センター長

六郷地域包括支援センターの渡邊と申します。よろしくお願ひいたします。では、「震災時に地域で起こったこと」ということで、テーマに沿ってお話をさせていただきます。

まず最初に、六郷地域の概要ということで説明をさせていただきます。仙台市の南東で東側には太平洋、南側には名取川と、海に、川に挟まれて、名取市、太白区、あと北の方は宮城野区にも隣接しているところになっております。人口の方

は六郷中学校区ということで13,642人、65歳以上の方が3,167人、高齢化率が22.93%ということになっております。

六郷地区は、高齢者の施設が大きいところで4ヶ所ありますので、そういう方達の人口も高齢化率の上昇に影響があるかなと思っております。世帯数は5,086世帯で65歳以上で独居の方、あとは高齢者だけの世帯が合わせて約1,050あります。時代に漏れず、高齢者の支援というところで、民生委員さん、町内会の方がいろいろと日頃から安否確認のシステムとか、福祉委員さんの創設とかで、いざ地震が起きたとか、何か水害の予想が立つという時には、お互いに声をかけられるようなシステムを日頃から構築していただいている地域でもあります。

学校の方は、小学校が2ヶ所、中学校が1ヶ所で、これが指定避難所という形で今回役割を果たしました。東六郷の方は津波に1階部分が全て飲み込まれたということで、実際2階に避難する途中に津波に巻き込まれて亡くなられた方、あとは水に浸かってしまって、低体温で亡くなられた方がいます。グループホームもありましたので、引き上げたけれども避難が間に合わなくて亡くなられたという方を子どもさん達も目の当たりにされて、人生というか、人の死というものを経験されたと話を聞いております。

町内会は12ヶ所ございますが、今お話をさせていただいた東六郷地区の4町内会と、あと三本塚という六郷地区の町内会の東側の町内会が津波が甚大で、ここに住んでいらした方が避難所となった学校とか、あとは親戚の家などに避難をされた方達が多かったです。

地域の方は、面積のほぼ3分の2が田んぼ・畑になっております。そちらの方では、代々専業農家だったり、あとは若い方はお勤めになっているけれども、高齢者の方が農業をしてお米とか野菜をいろいろと苦労して作られていたりしましたが、一瞬にして農地もだめになり、働いていた方の仕事場もなくなってしまったということです。現在、東部道路より西側の方は、田んぼ・畑は大分復活してきたと、私も地域を回らせていただいて感じております。本当に最近までは緑がなかった地区なのですが、今年の4月に際して、田んぼにも大分水が入って田植えもされて、少し戻ってきたのかなという実感です。

ここには書いておりませんでしたが、平成18年から私どもも地域の活動である年1回の避難所開設訓練に参加させていただいておりました。ただ、反省すべきことは多々ありまして、地震想定訓練ではあったんですが、津波の想定訓練は1回もしていなかったということをお反省しております。あと避難所の運営会議というものをしておりましたけれども、実際に並んで会議を開くところまでの訓練はしたのですが、その進め方が緊迫感がなかったといえますか、そういう会議の形を整えるということで、何か終わってしまったということが、すごく強い反省として、私としても感じております。

では震災発生後の時系列での変化というところで、資料に沿ってお話をしていきたいと思います。津波からの避難ということで、六郷小学校・東六郷小学校、六郷中学校、あとは今回津波でしたので、西側に住んでいる方は東側の方に避難することをかなり躊躇されまして、いろんな地区の町内会の集会所、今回は六郷の市民センター、東高校の方のご協力もいただきまして、市民センターは最後まで避難所として、指定ではなかったんですけども、活動していただいたようです。東高校の方も、先生方も入試の時期と重なっていて大変ご苦労されたようなんですけれども、入試のギリギリの時期まで置いていただいて、ギリギリのところまで違うところに町内会毎に移っていただくようにということで配慮されて、いろいろな地区の集会所など公的な機関で避難所の役割を、臨時だったのですが快く受けていただいて、皆さん安心をして暮らせたと聞いております。

東六郷の避難所の方は、一応指定避難所だったのですけれども避難所の役割が果たせないような状況でしたので、仙台市農協の六郷支所の2階会議室に、2つの町内会の方が全員ヘリコプターで移動していただいたということです。

ライフラインが復旧してからは、津波被害が大きかった地区に関しては、仮設住宅が完成するまではそれぞれの地区毎に分かれた避難所の方で生活を継続しておりました。あと、六郷地区は水が止まらなかったもので、自宅に戻れる方は日中の生活は何とか戻ってできました。ただ、夜間は電気が点かないので不安ということ、あとはいろいろと食事を作ったりということが大変だということで、避難所で寝泊まりをする方がおられました。4月中旬頃には、復旧して段々と自宅に戻る方が増えていまして、住宅が確保できない方だけが避難所に残っていたというような状況でした。

あとは、長期化した避難所での生活ということで、3月11日に被災してから3日後、3月14日には避難所の運営会議をしようということで、各町内会の会長さん、あと私どもの方も声をかけていただきまして、仙台市の方、翌日には新潟とか神戸の方も避難所の方の応援をしてくださいまして、みんなで総勢30人は超えるような方たちが六郷中学校のステージの上に輪になって、いろいろな話をしました。最初はもう行政に対する怒りとか、あとは「これはどうなっているんだ、あれはどうなっているんだ」という形で、かなり感情的なやり取りをしておりましてけれども、日にちを重ねる度に段々皆さん冷静になってきて、自分達の生活の今後ということで行政の方に対していろいろな要求とか、あとは経過の説明なんかを伺っているような感じでした。今の避難所の会議の方は、4月の下旬までは毎日行っておりました。5月の声を聞くころには、仮設住宅を建てる場所が方向づいてきまして、5月末には着工して7月前後には入居できるというような声を聞いてからは、大分いろいろな面で落ち着いてこられたようでした。

避難所の運営会議の時、やはり津波で被害を受けたところの道路の確保とか、いろいろと泥棒とか治安が悪くなりましたので、そういうところのパトロールをどう

する、自宅ををどう修理する、あとは仙台市の今後の「住んでいい」とか「悪い」というところについて、地域ぐるみでどのように対応していくかというようなところについては、男性の方が主になって検討されたように私の方は感じます。

4月になってからは、洗濯、衣類、テレビを見たい、栄養面でこのあたりが欠けているんじゃないかといった生活面でのいろいろな話について、地域の避難所の中に暮らしている女性の方もステージに上がってお話をしていただくような機会がだんだんと増えてきたように感じています。4月中旬位からは、最初は日中の避難所の運営をしていた男性の方も仕事に復活されるようになってきて、女性の方がテレビ局とか取材の方の対応なんかもするようになり、結構大変だったみたいです。女性の方が、取材を「受ける」とか「受けない」を判断されたり、避難所の受け付けなどもされていたようでしたね。

次は生活環境の状況ということで、先ほどもお話がありましたけれども、やはり一番ご苦労されたのはトイレだったと思います。大体は体育館が避難所でしたので、和式のトイレが1つか2つしかない。お体の不自由な方にはとても使えないということで、私どものほうでも近くの施設からポータブルトイレなども運びまして、本当にそのときは必死だったので、段ボールでちょっとした個室を作って対応していただいたりということでした。ただ、これも長期にわたっては不自由だということで、そのような避難所でのトイレが使えない方は、親戚の家とか、あとは福祉避難所というところにどんどん移動されるような結果になりました。あとは、お体が元気な方だったのですけれども、やはりトイレが校庭の東側の端で体育館の反対にあるということで、3月下旬から少し寒さがまたぶり返してきたということもありまして、本当に急なことではあったんですが、70代前半の方がお2人心筋梗塞で亡くなりました。こんな方ということでは本当に想像できないもので、かえって介護が必要な方のほうが割と体調を保って暮らせていたというような、非常に私たちもショックな状況でした。

あとは、学校に避難した直後というのは、皆さんまた津波が来るだろうと2階3階に避難をされていました。学校のトイレの使い方として、水が使えない時にどのようにトイレを使ったらいいのかということの認識がなかったというか、トイレにはトイレットペーパーを流さないということは皆さんご存じだったのかもしれないんですが、なかなか本当に大変な状況でした。3日間は、学校の先生方も帰らないで、本当にもうバケツとゴム手袋を持ってトイレの掃除している姿を私も拝見しました。

また、清潔の部分で津波に遭われた方は着のみ着のまま、何も持たずにそのまま体だけ逃げたという方がほとんどでした。お風呂にもすぐ入れる状況ではなかったもので、特に女性の方は下着の確保ということが困難だったかなと思います。何日かして下着の補充もいただきましたけど、なかなかサイズやデザインが若い方向けだったりということで大変だったと思いますが、いただいたものを有効に使って対応されていたようでした。洗濯機の調達や干す場所の確保、着替えをするコーナーということで、本

当に1つずつ生活が変わっていきました。洗濯なんかはボランティアさんが活躍していただいたようで、持って行って洗って、運んでくださって、とても助かったという話も聞いております。

定期的な入浴の確保ということも、4月中旬位からだったと思います。シャワールームを作ったり、あとは自衛隊の方にバスで行って入浴をしたりでした。山形などの温泉の方が送迎をバスでしてくださって、食事付きでお風呂に入れたということもあって、とても喜んでいらっしゃったようです。地区内のデイサービスからも、プロパンガスなら使えるということで、お風呂の利用をどうぞというようなお話をいただきました。ただ、夜は職員の確保が大変だということで、日中に限定だったものですから、働いている方の入浴の確保がその時は難しかったことがあります。やはり、ライフラインがなくなった時のお風呂の提供なども、本当は介護保険のサービスのところで災害の時に使える準備もしておければ良かったのかなと思っております。

食事に関しては、自衛隊の方が校庭にテントを張ってくださって、3食作っていただいてとても感謝されておりました。自衛隊の方が帰られる時は、みんな涙、涙で、本当にありがたかったというお話がありました。その後は仙台市の対応ということで、3食ともお弁当というような形でした。栄養面では少し偏りもあったかもしれませんが、体調を大きく崩す方はなく過ごされていたようでした。あと、少し心配だったのが、やはりトイレの利用回数を減らすために水分の摂取量をちょっと制限したりという傾向がありましたので、看護婦さんや保健師さんとともにできるだけ多く水分を摂取してというようなお声がけをさせていただいておりました。

運動や生活範囲の部分の規模が変わってきましたのでどうしても足腰が弱ったり、大きな生活環境が変わったりということで認知の機能の面でどうしても会話をする機会が減ってしまい、認知症の疑いの方が増えてきたかなということがありました。元々認知症であった方が避難所で暮らされて、どうしても周りと適応しなくて、本当にいいのかということを私達も自問自答しながら、区役所と相談して福祉避難所に移動していただいた方もおられました。

あとは、仮設住宅ができてからの生活ということになります。一番私どもで感じているのは、やはり震災前の家族構成から、高齢者は地元に残って、若い世代は生活がしやすい街中のほうに移られてしまったということが結構多くなりまして、仮設では高齢者世帯が随分多くなったと感じております。農業で収入を得ていた方は、避難所では出費がほとんどない状況だったのですが、仮設住宅では全部自分達で家賃以外のところは賄わなければいけないということで、経済的な収入がない高齢世帯は大変だと感じています。仮設住宅では、今いろいろとマスコミでも言われていますけれども、プライバシーが確保されるようになった一方、扉を開けないと誰とも会わない、話さないというような感じの方も増えてきています。その対策として、区役所の方で保健師さんなどの定期訪問、あとは地区とか区の社協が訪問をしたりしています。また、

いろんなところで集まっていただいてサロン活動ということもされていますが、男性の方が参加がどうしても少ない傾向にあるなど感じております。

一方、仮設住宅ではなくてアパートなどに暮らされている方には、なかなか地元の情報が行き届かないということでの話をいただきます。みなし仮設の方も、あと仮設住宅の方も元の町内の単位で集まるような機会を多くしようということで、町内会長さんとか民生委員さんが住所を把握されているということもあって、津波で被害が大きかったところ、全地区ではないのですが、5つの町内会のうち3つは月1回定例会ということで、名取や岩沼、若林区内に住んでいらっしゃる方も含めてお声がけをして、旧交を温めるような機会を確保しております。

在宅被災者については、避難所に来なかった理由としては、自宅での生活が十分できるという方と、逆に先程のトイレのような理由や移動面で大変だということで、最初から避難所での生活はできないよということで来られなかった方もおられます。特に、障害を持っていらっしゃる方や寝たきりの方、あとは電気を必要とする痰の吸引や酸素の方はほとんど自宅から出なかったと聞いております。ただ、水が出たので、ある程度の備蓄を確保されている方はそんなに不自由なく生活できていたようでした。現在は住宅の修理は大体行われていますので、在宅で暮らせている方の生活は落ち着いているかなと感じております。

女性達が復興に向けて取り組んでいることということで、私はちょっと勉強会の方には出ていないのですが、先ほどの町内会単位での若い方が中心になって、今後自分達はどのように暮らしていくのが望ましいかということで、地区毎にお話し合いとか勉強会といった活動をされていますし、地域を代表して要望を出したりといった活動もしていると聞いております。地区によっては、全く住んで駄目というところと、あと同じ町内でもこの部分は住んでいいけど、この部分は住んで駄目というようなことでかなり差があるので、なかなか意見を統一するのは難しいような話は聞いております。

最後になりますが、平時から必要な取り組みということで、私の感想にはなるのですが、今回被害が大きかった地区は、本当に何代も前からその地区で農業を生業として地域コミュニティが確立されていた地区でした。そのため、集団で避難所などでの生活も普段の地域のコミュニティが維持されて、統率が取れていたように感じております。ただ、新興住宅ですと、日頃からなかなかコミュニティに参加しない方も多いところもありまして、運営に参加しない割には避難所に来て何人分の食事をくださいとか、当然避難所としての役割にはあるようですが、なかなか受け入れがたい感情のずれみたいないところがあったようでした。何か起きたからといって住民活動を急に組織しようとしても、そこでは作れません。これから、何時どこでどのような災害がどのような規模で起こるかは予想できないということを一人一人が認識して、日頃から声をかけたり助け合ったりというような近所付き合いや、町内会の単位などで心情、



物資、利用可能な地域資源など共有できる関係づくりを、日頃から意識して、相互扶助の意識を高める取り組みをしていただければと思います。以上です。

○下夷会長

どうもありがとうございました。大変リアリティに富んだ、有益なお話を伺いました。

また、ご質問の方はいかがでしょうか。

では、先に私から質問させていただきますが、3月14日から大型連休の頃まで毎日会議をとということで、そのメンバーは町内会の会長さんたちと行政の職員の方、あとはどのような方でしたか。

○六郷地域包括支援センター 渡邊センター長

神戸と新潟の行政で応援して下さった職員の方、あとは仮設の場所を決めたりというところで、最初は若林もあすと長町に移るといようなお話があったのですが、地域の方がやはり仮設でも田畑が見える地区で暮らしたいという希望が強くて、議員の方もかなり足を運んでくださって、お話を一緒に進めていった時もありました。

○下夷会長

渡邊さんは女性でいらっしゃる訳ですが、実際にはその会議の中で他にはどのような女性の方がいらしたのでしょうか。

○六郷地域包括支援センター 渡邊センター長

神戸と新潟、あとは静岡の方からも衛生面の指導などで保健師さんが来てくださって、あとは地域の女性の方としては中学校で避難所を運営していた方の代表の方で、他の地区の方は残念ながら代表の男性の町内会長さんが来ていたということで、余り多く参加はしていなかったです。

○下夷会長

あともう1つ、ある程度時間が経過してくると、女性の方が肌着の問題だとかいろいろ訴えるようになって。でも、今のお話の中でステージに上がってそのような要求をされるようなことが出てきたということですが、結構勇気がいるといいますか、大変なことだったような気がします。

○六郷地域包括支援センター 渡邊センター長

そうですね、多分、町内会の会長さんとかにリーダー格の女性の方がお話ししたのですが、間接的に言うよりは直接そこで訴えたほうがいいのではないかとということで、ある時期からその方もステージに上がって、一緒にお話をするようになりました。

○下夷会長

それも、普通の住民の方でしょうか。

○六郷地域包括支援センター 渡邊センター長

多分、住民の方です。若いお母さん達で漬物クラブを作っていたんですね。そういう中のリーダー格の方が出てきてくださって、多分いろいろな女性の方の声を集約

した形だったと思うのですが、やはり言える方が表に出たのかなと感じています。

○下夷会長

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

避難所のプライバシーの問題で女性の方からよく出る話で、洗濯物などのお話はよく伺ったのですが、衝立だとか授乳室だとか、あと着替える場所とかそういったことが今回の震災の避難所の中で問題として出てきたのですが、こちらはどうだったのでしょうか。

○六郷地域包括支援センター 渡邊センター長

私が見たところでは、衝立をしている避難所はありませんでした。何か、布団とか衣装ケースなどで少しブロックにはなるのかなというところですね。私は授乳室は確認していないのですが、着替えや洗濯を干すところというのは、カーテンで仕切ってステージの脇の方にコーナーを設けたり、既存の空間を利用してやっていたようです。

○下夷会長

ありがとうございます。あと1つだけ、男性のニーズを何か感じることはありませんでしたか。

○六郷地域包括支援センター 渡邊センター長

男性は、やはり「家はどうなるんだ」など財産面のことがありました。あとは、地域の防犯と言うのでしょうか、津波で災害が大きくなかった地区の方が主に引き受けてくださったのですが、ガソリンなんかも大変な時期ではあったのですが、元々あった防犯の組織で安全パトロールの当番を決めて、交替で何人1組という感じで地域ぐるみで防犯対策もされていたようでした。

○下夷会長

ありがとうございます。他には、ご質問はいかがでしょうか。

それでは、六郷地域包括支援センターのセンター長の渡邊さん、今日は本当にどうもありがとうございました。大変有益なお話を伺うことができました。

○六郷地域包括支援センター 渡邊センター長

ありがとうございました。

○下夷会長

今、お二方のお話を伺いまして、途中ご意見をいただいている部分もあるのですが、改めまして委員の皆さんからのご意見ご感想、皆さんお一言ずつでもお願いできればと思います。

○原田委員

リーダーという制度について、例えば仙台市の中心部でマンションばかり建っているところと、そうでないところといろいろあると思います。よく分からないのですが、多分その中心部で何か活躍ということは、なかなか難しいかなとは思いますが、そうでないところで有効に活用できるのであれば、行政というのはコストも重要でござ

いますので、リーダーという制度を広めていくことは非常に重要な感じがしました。

ただ、それをやるにあたっては、例えばパンフレットを工夫するとか、それが何年か経ったら女性の方がこんな活躍をしていますとか、そういうものをパンフレットに載せれば女性の方がどんどん応募してくるのではなかろうかと思ったところです。

#### ○下夷会長

私もこれを見て女性のイラストを探したのですがいないということで、特に印象上のところでその通りだと思いました。今、女性が自然にリーダーとして活躍できているような広報の仕方であるとか、既にそういう活躍している人が出たときにそのロールモデルといったものをどんどん広めて続けていただければと思います。

#### ○橋本委員

今回の震災時の避難所運営においては、やはり女性の方々がご自分の家庭はほどほどにしながら、地域の集会所・避難所等で必死にお世話をしてくれたということは間違いない事実だと思うんです。今回その地域防災を効果的に進めていくために、どのようにしたら女性をもっともっと参加しやすい環境を整備していくかというようなお話で、お2人のお話を伺わせていただきました。

消防局さんから町内会に対して、ぜひ地域防災リーダーを出してくださいというお願いをしていますというお話がありましたが、どうしても町内会を構成している方々は、私の地域も含めてご年配の方々が中心になっています。ただ、地域というのは様々な団体、そして様々な年齢の方々がいらっしゃる訳です。私自身も小学校のPTAのお手伝いをしているのですが、現実として私ともう1人の男性以外は全て女性です。お隣の小学校、そのまたお隣の小学校に聞いてみても、会長さん以外は全部女性です。日中だったら活動できますという形で、結局ご主人方はお勤めに出ていますから、やはり地域に残っているお母さん方が活動の中心となります。だから、こういった方々が地域防災リーダーなどになりやすいような条件を整えていくことが、地域として、町内会として、女性をもっともっと参画しやすいような状況を作ることにつながっていくのではないかと感じています。男性の方は、もう完全に会社を1日休んでPTAの役員会などに出てきておりますけれども、お母さん方はパートをしている方もいますが子育てだけという方もいます。では、子育ての方々が夕方や夜も出てこれるかという、今度は子どもが夕方には帰ってきますから、その前には帰らせてくださいということになります。ですから、こういった地域防災リーダー一つとってもこの場所に集まってくださいではなくて、もっともっと市民センターやコミュニティセンターなど地域のものを活用しながら、その場に行政側の方々が出ていって講習を開いたりというような、どのようにしたらそういった女性の方々も、若い方々も参加して講習を受けやすい環境にしていくかということについて、もっともっとその地域の実情というものを把握していけば、いろいろな工夫ができるのではないかと私自身は感じておりました。

あとは、避難所の運営の話も聞きましたけど、「あ、男性の視点からしか見ていなかったんだな」と私が思ったことがあります。ある女性のグループの方々から、「下着が足りない」というお話をよく聞きました。「S・M・Lがあれば大丈夫でしょう」と申しあげましたら、「いや、橋本さん、下の方ではなくて上の方の下着です」と言われまして、「あ、そのような視点は持っていなかった」ということがありました。でも、それだって変な話ではないですけども、大きさはいろいろあるわけですよね。それと「どうやって対応するんですか」と言いましたら、例えば具体的な名前になってしまいますけれども、ブラトップというものがあって、それだとある程度のものは大きさに関係なく対応できるんだと、やはり女性の視点はそういったところにあるんだなというのは、改めて私自身も感じました。

ですからこそ、地域防災リーダーというのは、あまり1人とか2人だけに限らずに、若い人達にもなってもらえるような形、地域防災リーダーだけではなくて地域の核になってもらえるような女性、そういった方々を作っていくことが本当に必要なんだと感じました。

#### ○下夷会長

ありがとうございます。高橋委員、いかがですか。

#### ○高橋委員

これまでのお話で私も考えたことなのですが、普通の人アクセスしやすいシステムが欲しいなという印象がありました。私自身も地域のいろいろな集団組織などを研究したりなどしているのですが、やはりある程度ご年配の男性の方が中心になっているということで、女性の方がいらっしゃる場合でも例えば町内会の会長さんの奥様であつたりですとか、あるいはそれこそ先程の六郷のような農業など第一次産業が中心のところだと、何世代にもわたって割とその地域で発言力のある家の奥さんだつたりお嫁さんだつたりということが往々にしてあります。これは女性だけではなくて男性にも言えることだと思います。よく町内会活動に男性も女性もなかなか若い人が来ないと言いましても、これだけたくさんの比較的若い年齢層の男性女性がボランティア活動ということで被災地にも入っているということがあります。一面では、やはり地域の町内会組織やその他の地域の組織に、特別その地域の中で発言力が強いですとかイニシアチブを取っているようなタイプの方とは違った属性を持っていらっしゃる方、いわゆる普通の人が入りにくいようなシステムであつたり、どのような感じで混ざっていったらいいのかアクセスの仕方もよく見えないということもあると思います。やはり地域防災リーダーということで、特別な人がやることなのかなという感じで思ってしまう方もいらっしゃるかも知れないので、ある程度普通の人もアクセスできるような形でのシステムだつたり、あるいはこういう宣伝と言いますか、そういったことも考えていく必要があるのではないのかなと思いました。

#### ○下夷会長

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

○加茂委員

いろいろとお話を聞いている中で、最初のうちは男性がいろいろなことで支援して動いてくださるというのを聞いていたのですが、やはりこの仮設住宅の生活というところにも書いてある様に、そのサロン活動といったものには男性が参加していないのですね。そこを、本当に最初の心のケアのところでは女性が動いていければ、それがすごく大事だったのではないかと思います。

地域のコミュニティも、あそこは高齢の方が多く住んでいるところで、若い人達も今は段々増えてはきているのですが、そこでのコミュニティができ上がっていないとか、私もPTAをやっていますけど、そこでお母さん達のつながりは役員だけがつながっていたり、そこに来ている人達だけがつながっているっていうものがあります。

長田委員も先程おっしゃいましたが、このような地域防災リーダーのこのパンフレットの中に、女性が入りやすいようなカリキュラムというか、メンタル面であったり、何か話を聞くものがあればと。震災時は、やはり衣食住があつて、あとは最初に欲しい物ではないかもしれないのですが、もう1個娯楽というものが後々は大事になります。そこを最初から組み込んでいけば、子どもがいる人達が、あの時自分も動きたいけど動けない、でも子どももいるし、どうしたらいいのだろうというところで、ちょっとした心のケアという部分でも講習会のカリキュラムに入っていれば、すごくいいのではないかと。そういうところで手を挙げてくれる女性というのは、今回から多くなるのではないかと思います。

○下夷会長

ありがとうございます。高野委員、いかがでしょうか。

○高野委員

私がずっと話を聞いていて思うことは、やはり私達が地域でどのように役に立つのかということです。私どもの会社の理念というのは、自分の身は自分で守るということです。今回の地震についても、BCPその他、備蓄品も全部揃えて、持っていた在庫は地域に全部放出したのですが、そういう中で地域のコミュニティの方との接触というか、下を支える、こういう地域に会社をどうやって増やしていくのかということです。1つのコミュニティというか、町内会でできることは限られていますし、私達は常に5年先、10年先を見てどうするべきかということを考えている訳ですから、そういうところに乗っかってくるのも1つの方法なのだろうと思います。

あともう1つ、高橋委員がおっしゃった、いわゆるその他大勢の人です。私は採用活動を何十年もやっていて思うのですが、よく学校サイドからも言われるのですけれども、就職希望者の5%から15%は黙っていても就職が決まります。ところが、残り8割方の方は決まらない。これは何かと言うと、興味がなかったり、全然参加する意

欲がなかったり、いろいろあるのだろうなと思います。私は某大学の審議委員をやっていますが、いつもそこで頓挫してしまって、この人達はどうするのだろうと。早い話、それと一緒に。本当にこの部分の解決策ができれば、一人一人がその気になってやる、だから男性は男性の役割果たす、女性は女性の役割果たすようになっていくのだろうなと思います。これは、女性がという話ではなくて、自ずとそのような方向に走っていかないと、なかなか具体的にどうだということは今お答えできませんけれども、何かそう思うのです。

私等は大変申し訳ないのですが、立場上、会社を守ることの方で頭が一杯なので、会社は潰さないからあなた達が何とかしなさいという話なので、だから各々の役割を果たしなさいと。女性は女性の役割があるし、男性は男性の役割があるでしょうと。その中で滞りなく進めなさいという話になってしまうので、それが一般論として、一人一人がその気になって、やっていただくと。その中で、先程の防災リーダーなど、いわゆる知識を身につけてリードしてくれると、それで十分だと思うんです。そして、そのリードする人の後押しを私達チームがする、これだとオーケーだろうと思うんです。

○下夷会長

ありがとうございます。他には、いかがでしょうか。

○草委員

実際、災害時の町内会の運営をした時に、女性の方はやはり母性本能が強いので、我が子ということがすごく強いんですね。みんなで共有するとか、何かするというよりも、とにかく我が子ということが多々見られました。

高野委員もおっしゃったように、私が前回も言ったことだと思うのですが、やはり男性だから女性だからではなくて、各々が考えていかなければいけないことだと思います。町内会でもみんなで考えようと言っても、やはり考える人は3分の1。3分の1論理というものがありますが、こちらがいくら笛を吹いても付いてくる人がいないというところもありますし、そういった面では厳しいなというのが感じられます。難しいなというお話だと思います。

○下夷会長

そこを何とか頑張りましょう。他は、よろしいでしょうか。

○佐藤副会長

まだまとまっていないのですが、いろいろとお話を伺う中で、まずは大切なのはそれぞれの立場を尊重するということと、あとキーワードとしては、おそらく仙台市の中で日常生活に復帰していくというようなプロセスの中でいろいろな立場の人がいて、徐々に復帰していくのですが、その復帰が遅れていく人達ですよね。そういった人達をどういった形でケアできるかということ、予めシミュレーションしておくということでしょうかね。そういった意味で、今回、女性の立場からいろいろなことが考え

られて、困ったこととか、非常に悩ましいこととかが出てきたと思うのですけれども、こういうことを常にシミュレーションしておくということが、すごく重要なのかなという気がしました。先程の、民間企業なら民間企業の立場、要するに職があるということは、地元が復興していくためには、非常にそれもまた重要なことですよね。ですので、やはり日常へ復帰して業務が動いていった時にはそれも尊重しながら、徐々に残っていく人たちをどうケアできるかを想定しておく、想定の中身を考えておくということが大切かなと感じた次第です。

#### ○下夷会長

ありがとうございます。伺ったご意見の中で、やはり地域防災リーダーにおいては、常に男女ペアというのがスタンダードになるような形を目指さないと、結局何か上手くいかないかないのではということを感じましたし、あとはこの実際の具体的なリーダー養成ですが、今年度は50人ということなので仕方がないのかもしれないですけれども、やはりご意見にもありましたように、応募の際のクォータ制というか、男女の定員の枠みたいなものは作れないのかということを感じたところでした。やはり、いくら広報を行っても、現実的には男性中心になる領域なので、少し手を入れて、女性をこういう形で活躍してもらう人として育てるということにてこ入れしないと、上手くいかないのではないかとすることは非常に感じたところです。

他にも皆さんいろいろとお考えになったことがおありになるかと思います。今日のご意見をいただく時間はもうこれで終わりになりますけれども、終了後でも、またお気付きの点などありましたら、私なり事務局なりにお伝えいただければと思います。後になっていろいろとアイデアが浮かんでくるということもよくあることなので、ぜひよろしく願いいたします。それでは、これで委員の皆さんの意見交換というところは終わりにしまして、次の議題にまいりたいと思います。

#### (4) 審議会の今後の進め方について

##### ○下夷会長

(4)の審議会の今後の進め方についてでございます。では事務局の方からよろしくをお願いします。

##### ○小野男女共同参画課長

今後の進め方でございますけれども、資料1をご覧ください。資料1の下の方に参考という部分がございます、今後のスケジュールを載せております。まず7月頃を想定しておりますが、第2回の審議会におきまして、被災者の支援活動等に当たられました市民団体等の方から今日のような形で情報提供をいただく予定しております。その次の9月に予定して第3回審議会におきまして、提言案の検討をしていただきますとともに、平成23年度の個別事業の進捗状況についてご報告をしたいと考えております。そして、11月予定の第4回の審議会におきまして、提言についての決定を

していただきたいと考えております。また、来年1月になりまして、次年度のテーマについてご検討をいただくという形で考えております。

続きまして、資料3をご覧くださいなのですが、次の第2回の審議会の進め方についての案でございます。先ほど申しましたとおり、今回の震災におきまして支援活動を行った市民団体の方から4つここには載せておりますけれども、この中から2～3の団体に情報提供をいただきたいと考えております。

我々の案としましては、イコールネット仙台さんということで、平成20年に仙台市の女性を対象とした調査を実施いたしまして、「女性の視点から見る防災・災害復興対策に関する提言」をまとめた団体でございます。今回の震災におきましては、せんだい男女共同参画財団と協力いたしまして、「せんたくネット」を立ち上げたということで、支援活動を行った団体でございます。

次の岩切・女性たちの防災宣言をつくる会でございますけれども、こちらも震災前の平成22年におきまして、岩切地区で子育てや町内会等で地域活動を行っている女性の方達が集まりまして、ワークショップなどを開いて、女性たちの防災宣言というものをまとめております。震災におきましては共助の担い手といたしまして、地域で活動をされた団体でございます。

次の3番目のみやぎジョネットでございますが、こちらは被災地の女性と全国の支援者の思いを結ぶことを目的に発足した団体でございます。震災直後におきましては、全国からの支援物資を被災者に届ける活動を行いました。その後、サロン活動の展開など被災地の女性の精神面でのサポートを行うなど、変化する状況に対応しました支援プログラムを実施している団体でございます。

最後はせんだい男女共同参画財団ということで、財団につきましては震災直後に「女性の悩み災害時緊急ダイヤル」を開設したり、市民団体等との連携を図りながら、せんたくネットですとか、ガールズプロジェクトなどの支援活動を行っております。以上の4団体を想定をしております。

#### ○下夷会長

ありがとうございます。

事務局から今ご説明いただきました今後の進め方とあと次回の審議会について、何かご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。では、4つということは時間的にも難しいので、少しご都合なども合わせてセレクトして、またお話を伺うということをお次回行いたいと思います。

#### 4 その他

- (1) 男女共同参画せんだいプラン2011における優先的・重点的な取り組みの進捗状況について

#### ○下夷会長

- (1) の男女共同参画せんだいプラン2011における優先的・重点的な取り組みの進



捗状況についてということで、ご説明を事務局にお願いいたします。

○小野男女共同参画課長

前回の審議会におきまして、プランの中で成果目標やモニタリング指標を掲げているものについて、3月末時点における数字が分かっているものを示して欲しいというお話がありましたので、資料4で一覧表にしてまとめております。これにつきましては、若干の評価等を加えた上で、9月に予定しております第3回の審議会において、改めてご報告したいと思っております。

○下夷会長

ありがとうございます。これは資料を皆さん持ち帰って、よくじっくりご覧いただいて、これから後の審議の際に役立てていただきたいと思います。私も見ていると、いろいろ気になるところもありますが、今日はこれについての審議はいたしませんので、参考としてご覧になっていただきたいと思いますということでございます。特に何か今の時点でご意見があればいただきます、よろしいでしょうか。

では、次に(2)日本女性会議の開催について、説明をよろしくお願いいたします。

(2) 日本女性会議の開催について

○小野男女共同参画課長

今年の10月に開催いたします日本女性会議2012仙台につきまして、概要が固まりましたので、事務局を担当しております(公財)せんだい男女共同参画財団のエル・ソーラ仙台管理事業課長の武者からご説明させていただきます。

○武者エル・ソーラ仙台管理事業課長

(公財)せんだい男女共同参画財団の武者と申します。ご説明させていただきます。

資料の方をご覧いただけますでしょうか。1枚目が概要で、2枚目がNEWS LETTER、3枚目が事業のチラシということになっております。概要に基づいて、説明をさせていただきます。

女性会議につきましては、11月の審議会の時に松江でPR活動などしてきましたというご報告とともに、日程など大まかなことについてご報告させていただいております。10月26日から28日という日程と国際センターでの開催ということは変わっておりませんので、具体的な中身の方をご説明させていただきます。

1日目の金曜日は午後からのプログラムとなっております。開会式等がございまして、その後、特別プログラムということで3.11からの被災女性の当事者性の高い内容にしたいということで、2枚目につけておりますNEWS LETTERの方で、特別プログラムということで紹介をしております。岩手と福島で活動しておられる方々もお呼びするようにしてございまして、石井さんとおっしゃるパネリストの方が岩手でやっていたらっしゃる方でして、一番最後の二瓶さんが福島でいろいろ活動をなさっている方です。1日目は、その特別プログラムの後、交流会がございまして。

2日目の土曜日は、午前中は分科会です。分科会につきましては NEWS LETTER の裏面で6分科会を紹介してございます。パネリストが未定のところもございませけれども、現在募集要項を作成中でして、もうすぐ発表できる状況となっております。ちなみに本日ご欠席でいらっしゃるが、佐藤理絵委員がコーディネーターとして、本日のテーマでもあるような「復興・防災に女性の声を ～出す、ひろう、生かす」というタイトルで、第1分科会を運営していただくことになっております。あと、午後の記念講演・シンポジウムについては NEWS LETTER の方にまだ盛り込んでおりませんが、記念講演はノルウェーの国会議員さんで、現在30歳という若手の2期目の女性国会議員の方をお招きできることになりました。ノルウェーの大使館の全面的なご協力をいただいて、そういった運びになっております。その後、シンポジウムがございまして、記念講演の国会議員の方も含めまして、コーディネーターを東北大学の辻村みよ子先生にお願いしまして、各方面のパネリストをお招きしてのシンポジウムで総括するという内容になっております。なお、会議の日程が金曜日と土曜日がメインですけれども、その他全国から被災地仙台・東北にいらっしゃるというお客様のためにエクスカージョンを準備してございまして、5コースほど企画しております。被災地の視察を中心としたようなエクスカージョンを考えております。そのような形で10月の実施に向けまして、現在準備を進めてございまして、市政だよりの7月1日号にて、市民の皆様へのお知らせもできる予定で進めているところです。6月中旬に募集要項を完成し、募集広報を始めたいと考えてございまして。

そして、3枚目に付けておりますオレンジのチラシですけれども、「仙台から発信！女性のエンパワメント」を、女性会議のイベントとして位置づけております。女性会議の分科会の企画に携わっておられる方々にご参加をいただきまして、震災ということがあったけれども、みんなでいろいろ発信していこうという機運を盛り上げたいと思っております。コーディネーターは、実行委員長の水野紀子先生にお願いしたいと思っております。水野先生は前々審議会の委員長でいらっしやいまして、今回女性会議の実行委員長を務めてくださっておられます。6月23日の開催ということで男女共同参画週間の事業ということとも合わせまして、このトークセッションを実施いたします。もしお時間等ありましたら、委員の皆様もぜひご参加いただけるとありがたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

#### ○下夷会長

ありがとうございます。委員の皆様からご質問などございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では最後に何か委員の皆様からございますでしょうか。それでは事務局からはいかがでしょうか。

#### ○高橋男女共同参画課主幹

まず議事録の作成と公開についてでございますけれども、事務局で原案を作成いた

しまして、出席された委員の皆様にお送りいたしますので、ご確認をお願いしたいと思います。皆様にご確認いただいた後、先程会長のほうから指名をしていただきました高野委員と橋本委員の署名の手続きを経て、議事録として公開という運びになります。それから次回審議会につきましては7月の開催を予定しておりますけれども、事前に皆様の日程を調整させていただいてご案内をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

## 5 閉会

### ○下夷会長

ありがとうございます。大変遅い時間の会議で、皆様にも大変ご苦勞をおかけいたしました。これを持ちまして、本日の審議会は終了したいと思います。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。次回もどうぞよろしくお願いいたします。

議事録署名委員の署名

仙台市男女共同参画推進審議会委員

橋本啓一

仙台市男女共同参画推進審議会委員

高野雅之